

霧島酒造のDX(デジタルトランスフォーメーション)について

2022年8月25日

デジタル社会の急速な発展のなか、霧島酒造の活動を三つの領域(あじわいDX、くつろぎDX、ひとづくりDX)に分け、データの利活用とコミュニケーション促進を中心に据えた、三位一体のDX推進を行っております。AIやロボットなどのデジタル技術を、事業基盤である発酵産業へ内包し、全社でダイナミックな変革を推進していきます。

DXに取り組む背景

日本国内の労働人口が減少し、製造業や地方での働き手不足が見込まれる一方で、伝統的な産業である酒類業界においても、データやIT技術を活用したものづくりが加速しています。

このように当社を取り巻く市場環境が激しく変化する中、スピード感をもって対応しながら、お客様がこれまで以上にご満足をいただけるよう、付加価値の高い商品とサービスをご提供する必要があると考えております。

DXの活動方針

「ダイナミックシンキング」をスローガンに、デジタル社会の急速な発展に対応するため、当社がこれまで培ってきた創造開発力を発揮し、ダイナミックに行動していきます。

焼酎造りの基礎は、麹菌や酵母菌などの微生物を利用した伝統的な発酵産業です。当社ではこれを「クラシカルバイオテクノロジー」と称しており、技術開発やイノベーションを積み重ねることで、事業を展開してきております。

DXに取り組むにあたり、AIやロボットなどの最新のデジタル技術を全社で導入し、焼酎造りの長い歴史と伝統の中で暗黙知として培われてきた技術や経験、知見をデータとして捉えて形式知化することで、更なる発展を目指します。

生産性の向上のみならず、働き方や業務プロセス、組織や文化の変革までを視野に入れてDXを推進することで、経営判断のスピードと質を高めます。また、既成概念に捉われない発想で、DXをはじめ、新商品開発や新事業などの新たな柱を生み出し、将来の大きな飛躍を目指します。

代表取締役社長 江夏順行 コメント

霧島酒造の焼酎造りの基盤である発酵産業に、AIやロボットなどのデジタル技術を掛け合わせて、より発展させていくためにDXを推進していきます。

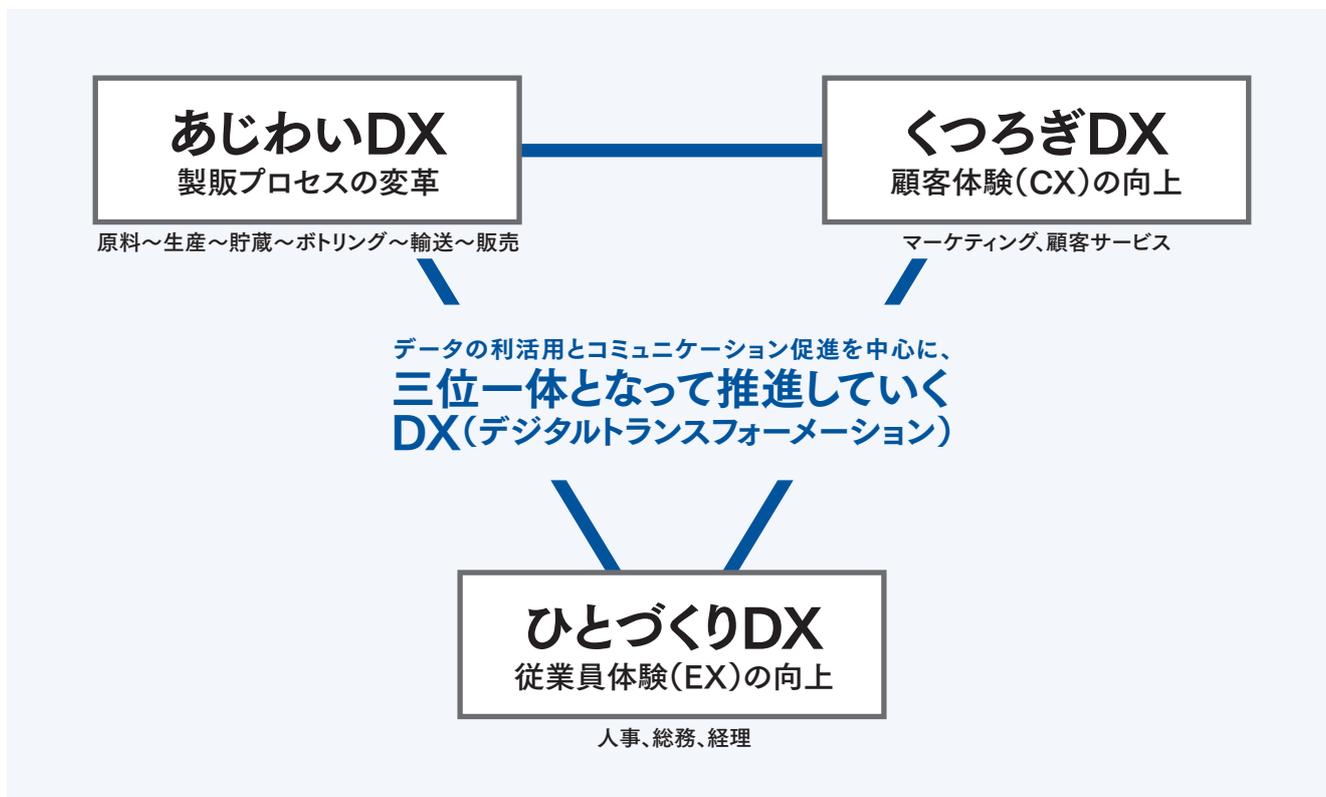
DXはゴールではなく、全ての課題を解決できるような万能策でもありません。あくまでも成長の手段の一つとして考えています。

焼酎は、地域の恵みを受けて造られた農産物加工品であり、手作り感、クラフト感、クラシカル感を感じられるものであるべきです。皆さまの、日々の食事を美味しくし、ワイワイガヤガヤと楽しいコミュニケーションの潤滑油となるべきです。

そういった焼酎を造り続けるためには、単なるデジタル化により、業務効率を改善させれば良いということではありません。変えるべき部分と変えてはいけない部分をよく吟味する必要があります。

感性や感情に訴える本当に大切な部分に、人と時間をさけるようになり、デジタル社会の中にあってもより温かいつながりを持つために、人と人がリアルに接点を持つ場所をつくる事が出来る。そういったハイタッチな部分を更に増やしていくために、DXを推進していきます。

霧島酒造のDXにおける三つの領域



①あじわいDX(製販プロセスの変革)

さつまいもの調達から、焼酎の製造、販売に至るまでの製販プロセス全体の変革を行います。さつまいもが持つ可能性をさらに見出し、焼酎以外の様々な分野への発酵技術の応用を目指してまいります。

②くつろぎDX(顧客体験(CX)の向上)

卸店様との取引(BtoB領域)において、お客様の嗜好データなどに基づいた提案活動の促進と、より密な連携体制の構築に取り組みます。

生活者・消費者とのコミュニケーション(BtoC領域)においては、SNSなどのデジタルチャネル上で繋がったユーザーや、オンラインショップをご利用のお客様、「焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン」へお越しいただくお客様などの、リアルとデジタル両方の様々な顧客データを統合し、お客様一人ひとりに寄り添った新たな「霧島体験」の創出を進めてまいります。

③ひとつづくりDX(従業員体験(EX)の向上)

従業員体験の向上のため、データガバナンスやセキュリティガバナンスの向上を図り、AIやロボットなどのデジタル技術の導入で、クリエイティブな企画考案や判断業務に割ける時間を増加させます。また、全従業員向けにDX基礎教育を実施し、人に優しい働き方への変革を進めてまいります。



霧島酒造株式会社

〒885-8588 宮崎県都城市下川東4丁目28号1番